

おがさわら人とペットと野生動物が共存する島づくり協議会
平成30年度事業報告

1. 平成30年度事業実施結果の概要

協議会では、平成29年度に引き続き、関係機関・団体それぞれが主体的に実施している事業と連携する形で、動物対処室の管理・運営や施設の活用等（診察や治療等）を通じた事業を実施した。

平成29～30年度にかけて、希少野生動物の野生復帰に寄与するなど、動物対処室開設前には見られなかった成果が出ている。また、ペットの飼い主からの診療ニーズも多く、対処室においてはイヌ・ネコの6割近くの受診があった。さらに、各種イベント等において、各種事業のPR活動や普及啓発活動を行った。

表1：平成30年度の事業別実績（動物対処室に限る）

事業名	(1)野生動物の保護	(2)飼い主のいないネコ対策	(3)ペットの適正飼養の推進
診療個体数	24個体	53個体	76個体
診療延べ回数 (割合)	194回 (17.0%)	314回 (27.5%)	634回 (55.5%)
平均診療回数	8.1回/個体	5.9回/個体	8.3回/個体
最大診療回数	58回/個体	73回/個体	42回/個体
診療費合計* (割合)	1,712,400円 (16.0%)	2,505,241円 (23.5%)	6,452,890円 (60.5%)
平均診療費*	71,350円/個体	47,269円/個体	10,389円/個体

※飼い主価格をもとに比較

(1) 野生動物の保護

①負傷個体の治療

連携先/主担当：環境省 iBO 東京都

【平成30年度事業計画】

- ・外来種による被害や人為的影響等を受けて保護された負傷個体について、必要に応じて治療を施す
- ＊主に希少種（特に個体レベルでの保護が必要な種）を対象とし、その他の種については状況に応じて実施する
- ＊東京都の鳥獣保護管理員等が保護し都の委託を受けて iBO が一時飼養を実施する負傷個体については、必要に応じて治療を施す
- ＊母島については、母島の開業獣医師と協議会との連携体制を検討する

②島内での野生復帰のための一時飼養・リハビリの補助

連携先/主担当：環境省 iBO 東京都

【平成30年度事業計画】

- ・島内でのリハビリが可能な希少動物について、関係団体の施設等におけるリハビリを補助する

【実施結果概要】

・ 対処室の実績

→鳥獣保護管理員等から傷病個体の連絡や相談を受けたうえで、処置が必要と判断した個体の治療を実施。保護した野生動物 101 個体のうち 20 個体を診察・治療。

※過年度に保護した個体を含めると 24 個体を診察・治療。

※平成 29 年度は、保護した野生動物 104 個体のうち 27 個体を診察・治療

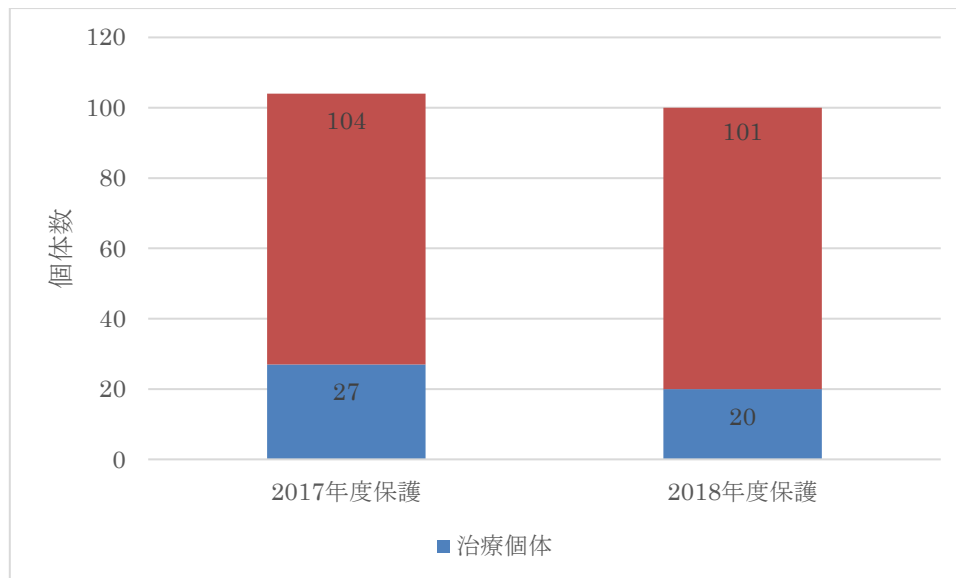


図 1 : 各年度の保護個体数と治療個体数

・ 母島開業獣医師と傷病鳥獣の診察、一時的な処置について委託契約を締結

→診察・処置実績 オガサワラオオコウモリ：4 頭、カツオドリ、ミズナギドリ

→主な内訳（平成 30 年度・診察治療個体）：表 3 参照

- ・ オガサワラオオコウモリ：9 頭（リハビリを経て野生復帰：6 頭）

※上記に加えて、過年度に保護された個体も平成 30 年度に 1 頭野生復帰。その他、過年度治療時実績は、表 4 参照。

- ・ アカガシラカラスバト：5 羽（野生復帰：0 頭、動物園搬送：2 頭）
- ・ オガサワラノスリ：1 羽
- ・ カツオドリ：1 羽

表2：平成30年度に保護及び診療した主な野生動物の診療実績

保護			種	保護状況	対処室の対応			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2018	5	11	オガサワラ オオコウモリ	高木果樹ネット絡まり	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2018.5/11～23	21	2018.5/24 野生復帰
2018	6	15	オガサワラ ノスリ	小港口ロータリーで衰弱	皮下点滴、皮下注射	2018.6/15～16	2	2018.6/17 死亡
2018	6	27	アカガシラ カラスバト	小学校の窓ガラスに衝突	死亡確認	2018.6/27	1	2018.6/27 死亡
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島キュウリネット絡まり	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2018.7/4～7/26	33	2018.8/3 野生復帰
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島ハウス侵入(絡まり)	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2018.7/4～6	3	2018.7/7 野生復帰
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島ハウス侵入(絡まり)	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2018.7/4～6	3	2018.7/7 野生復帰
2018	7	3	オガサワラ オオコウモリ	母島ハウス侵入(絡まり)	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2018.7/4～13	18	2018.7/14 野生復帰
2018	8	8	アカガシラ カラスバト	テグス絡まり	皮下点滴、皮下注射	2018.8/8～9	2	2018.8/9 死亡
2018	8	27	オガサワラ オオコウモリ	都道脇にて親からの脱落	血液検査、皮下点滴、皮下注射	2018.8/27～29、10/24	4	飼育継続中
2018	10	12	オガサワラ オオコウモリ	有刺鉄線絡まり	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2018.10/12～11/27	57	2019.1/15 野生復帰
2018	10	22	オーストン ウミツバメ	扇浦で人工灯誘因	皮下点滴、皮下注射	2018.10/22	1	2019.10/24 死亡
2019	1	4	アカガシラ カラスバト	西町で人工物衝突	皮下点滴、皮下注射、強制給餌	2018.1/5	2	2019.1/6 死亡
2019	1	26	オガサワラ オオコウモリ	奥村で衰弱(幼獣)	皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布	2019.1/26	1	2019.1/31 死亡
2019	1	31	オガサワラ オオコウモリ	二見港で衰弱(亜成獣)	血液検査、皮下点滴、皮下注射	2019.1/31	1	2019.1/31 死亡
2019	3	16	アカガシラ カラスバト	長谷トンネルにて交通事故	皮下点滴、皮下注射、強制給餌、ICU(保温)	2019.3/16～26	17	2019.3/26 多摩動物公園へ搬送
2019	3	24	アカガシラ カラスバト	宮之浜道で電線衝突	レントゲン検査、皮下点滴、皮下注射、ICU(保温)、包帯	2019.3/24～26	5	2019.3/26 上野動物園へ搬送
2018年度	この他、カツオドリ、アナドリ2羽、メダイチドリ、トラツグミを治療							

表3：過年度に保護した個体で平成30年度に診療した主な野生動物の診療実績（太字）

保護			種	保護状況	対処室の対応			結果
年	月	日			主な内容	期間	回数	
2009	12	31	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、健康診断	2018.5/24	1	飼育継続中
2009	11	20	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、糞便検査、皮下点滴、皮下注射	2017.11/18 ～21	6	2017.11/21 死亡
2012	9	27	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、健康診断	2017.12/5	1	2018.2/26 死亡
2014	8	5	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	細菌学的検査、皮下注射、翼膜洗浄、外用薬塗布	2017.9/21～ 11/21	86	2017.12/11 死亡
2016	6	20	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	血液検査、皮下注射、外用薬塗布	2017.6/23～ 7/20	20	飼育継続中
2016	8	25	オガサワラ オオコウモリ	(飼育個体)	皮膚検査、外用薬塗布、内服薬	2018.5/10～ 5/23、8/16 ～8/21)	7	飼育継続中
2017	4	17	オガサワラ オオコウモリ	キュウリネット 絡まり	血液検査、皮下点滴、皮下注射、外用薬塗布、内服薬	2017.4/18～ 6/1 2018.5/26	71	2018.5/27 野生復帰
2017	7	6	オガサワラ オオコウモリ	キュウリネット 絡まり	血液検査、皮下注射、外用薬塗布	2017.7/7～ 13	12	2017.7/13 野生復帰
2017	8	22	アカガシラ カラスバト	大根山汚水処理場の沈殿槽に落下	スワブ検査、皮膚検査、保温、皮下点滴、外部寄生虫駆除	2017.8.22	1	2017.8/23 死亡
2017	8	25	オガサワラ オオコウモリ	農セン展示園	血液検査、保温、皮下点滴、皮下注射、外部寄生虫駆除	2017.8/25	1	2017.8/26 死亡
2017	9	4	コアホウドリ	父島周辺の海上	レントゲン検査、保温、皮下点滴、外部寄生虫駆除	2017.9/4～ 14	5	2017.9/15 野生復帰
2018	1	31	アカガシラ カラスバト	清瀬(若鳥)	糞便検査、皮下点滴、皮下注射、強制給餌、内服薬	2018.1/31～ 2/9	10	2018.2/19 野生復帰
2017 年度	この他、海鳥類 11 羽(シロハラミズナギドリ 2 羽、セグロミズナギドリ 1 羽、カツオドリ 2 羽、コゲンカンドリ 1 羽、ハワイセグロミズナギドリ 1 羽、アナドリ 2 羽、オナガミズナギドリ 1 羽、シラオネツタイチョウ 1 羽)、その他の鳥類 10 羽を治療							

(2) 飼い主のいないネコ対策

①捕獲ネコの体調管理・駆虫、病気のネコへの処置

連携先／**主担当**：環境省 iB0

【平成30年度事業計画】

- ・ノネコ等の飼い主のいないネコが事故等により負傷した際に、一次的な処置を行う
- ・環境省が実施するネコ待ち管理に関して、駆虫薬等の処方、技術的な助言を行う
- ・一時飼養されているネコが罹病した際には一次的な診察を行う

【実施結果概要】

- ・対処室の診察・処置実績
 - ネコまち担当者から連絡や相談があった場合対応。捕獲したネコ73頭のうち31頭を治療・処置。過年度に捕獲したネコを含めると53頭を診察・処置。
 - 駆虫プログラム途中の糞便検査：40回や馴化指導等を実施
 - 捕獲時に負傷した個体や衰弱個体には、血液検査（11回）、レントゲン検査（20枚）、皮膚検査（3回）、細胞診検査（4回）、眼科検査（3回）、爪切り・洗浄・消毒等の各種処置（58回）、点滴（82回）、注射（90回）、内服薬処方 等の一時的処置を実施。搬送先の病院向けの治療経過報告書の作成（29通）。
 - ネコまちにおけるワクチン接種：22頭のべ32回を実施（12月まで：12頭以上の多頭状態で、搬送先が決まらず2週間程度決まらない場合 1月以降：原則全頭対象）。
- ・母島開業獣医師と、捕獲ネコの診察、一時的な処置について、委託契約を締結
 - 診察・処置実績 1頭

②島内譲渡ネコの感染症等衛生検査、避妊去勢手術

連携先／**主担当**：環境省 小笠原村 iB0

【平成30年度事業計画】

- ・捕獲ネコを島内向けに譲渡するために必要な衛生検査、避妊去勢手術を島内の開業獣医師や東京都獣医師会等と連携して実施する
- ・譲渡希望者のリストアップ、室内飼養徹底に関する指導、適性確認の面談を行う
- ・捕獲ネコを島内向けに譲渡するために必要な衛生検査、避妊去勢手術を島内の開業獣医師や東京都獣医師会等と連携して実施する
- ・譲渡希望者のリストアップ、室内飼養徹底に関する指導、適性確認の面談を行う

【実施結果概要】

- ・ネコ待合所で平成30年3月に産まれた仔ネコ3頭を対象に、希望者募集（6月上旬）、面接（6月中旬）、適正飼養講習会（6/22）を経て島内譲渡を実施（7月上旬）。
- ・対処室の実績
 - ワクチン接種やマイクロチップの装着（6月下旬）、譲渡後の適正飼養指導を随時行うとともに、母島獣医師と連携して避妊去勢手術を実施（11月）。

③譲渡促進のための情報発信

連携先／**主担当**：環境省 小笠原村 獣医師会

【平成30年度事業計画】

- ・捕獲ネコの内地での譲渡先を確保するため、獣医師会と連携して情報発信を行う
- ・小笠原ネコプロジェクトのホームページの運用を行う

【実施結果概要】

- ・譲渡促進の情報発信に関し、東京都獣医師会の各動物病院へ配布するため、書籍等(700冊)の購入・配布等
- ・ネコ連による譲渡促進関連の普及啓発行事の開催・出展・協力等(26回程度)に際し、パネルや資料等を提供
- ・ホームページの運用状況をふまえ、ネコ連で調整の上、譲渡希望の問合せページを削除し、小笠原ネコプロジェクトの周知を目的としたサイトにリニューアル

(3) ペットの適正飼養の推進

①ペットの診療

連携先／**主担当**：小笠原村 島しょ保健所

【平成30年度事業計画】

開放日時：毎週 月、水、金 8:30～11:30、13:30～16:30 *事前予約制とする。

*開放日時外・休日・夜間は村役場が窓口。時間外料金を徴収。

処置内容：健康相談、健康診断(血液検査等)、ワクチン注射、避妊去勢手術、一次診察(外用薬、内用薬の処方含む) *宿泊を伴う処置は実施しない。

*事故等による緊急的な処置や獣医師がやむを得ないと判断した開放日時外の処置及び往診による処置についても、所定の手数料を徴収した上で実施できることとする。

【実施結果概要】

・対処室の実績

- 76頭(イヌ、ネコ、モルモット、ハムスター、ハリネズミ)へのペット診療を実施
- 初診の飼い主に対しては、マイクロチップの装着確認と装着推奨を実施
- 父島のペット累積受診率は、ネコが前年度36.7%から57.1%に、イヌが前年度47.1%から61.8%に上昇
- 飼いネコへのマイクロチップ装着は4件(島内譲渡ネコ含む)
- その他の動物として、これまでにモルモット3頭、ハムスター1頭、ハリネズミ1頭、ニワトリ1羽が受診

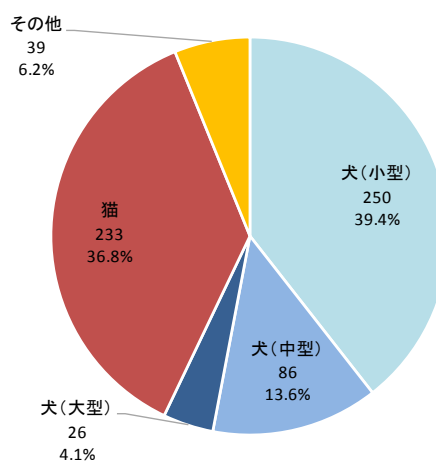


図1：動物種別の診療実績
(平成30年度)

表 4 : ネコの登録状況と動物対処室及び母島獣医師受診状況

年度末時点	父島			母島		
	2011年度	2017年度	2018年度	2011年度	2017年度	2018年度
登録台帳数 (頭)	92	61	56	16	11	18
登録削除数	-	4	9	-	1	1
ペット累積受診率 ^{※1}	-	36.7%	57.1%	-	18.2%	88.2% ^{※3}
マイクロチップ装着率	85%	91.8%	94.6%	63%	90.9%	100%
避妊去勢率	96%	96.7%	98.2%	100%	100%	94.4% ^{※4}
室内飼養率 ^{※2}	41%	83.7%	83.9%	25%	27.3%	52.9%
台帳登録世帯数 (多頭飼養世帯数)	59 (16)	44 (12)	37 (14)	7 (4)	6 (3)	9 (4)
飼い主累積受診数 ^{※1}	-	17	27	-	2	8 ^{※3}
最大多頭飼養数	13	4	4	4	3	4

※ 1 : 台帳登録削除のネコ除く

※ 2 : 室内飼養は、農地のハウス、リード付きも含む。

※ 3 : 母島獣医師が診療したネコ 14 頭含む。

※ 4 : 予定ありを含めると 100%

表 5 : イヌの登録状況と動物対処室及び母島獣医師受診状況

年度末時点	父島		母島	
	2017年度	2018年度	2017年度	2018年度
登録台帳数 (頭)	68	68	10	8
登録削除数	8	10	1	1
ペット累積受診率 ^{※1}	47.1%	61.8%	80.0%	100% ^{※2}
マイクロチップ装着率	67.6%	58.8%	90.0%	100%
避妊去勢率	-	60.3%	-	62.5%
台帳登録世帯数 (多頭飼養世帯数)	54 (6)	57 (9)	10 (0)	8 (0)
飼い主累積受診数 ^{※1}	26	36	8	8 ^{※2}
最大多頭飼養数	7	7	1	1

※ 1 : 台帳登録削除のイヌ除く

※ 2 : 母島獣医師が診療したイヌ 6 頭含む。

②開業獣医師と連携した母島診療

連携先／**主担当**：小笠原村 島しょ保健所

【平成30年度事業計画】

- ・開業獣医師が実施する母島での健康相談、健康診断（血液検査等）、避妊去勢手術、一次診察を補助する

【実施結果概要】

- ・母島獣医師による飼いネコへのマイクロチップ装着：6件、避妊・去勢手術：4件

③愛玩動物の飼養状況の把握と指導

連携先／**主担当**：小笠原村

【平成30年度事業計画】

- ・村が管理するネコやイヌの登録情報に基づき、飼養状況を把握する
- ・村において新たに制定を目指している愛玩動物に関する条例の運用にあたり、村と連携してペットの飼養状況の把握を進める

【実施結果概要】

受診したペットについては、獣医師による飼養状況の把握を行い、小笠原村の登録情報を随時更新した。また、診療を通じて動物対処室のペットの適正飼養の相談又は指導（飼育状況（当該動物・同居動物）の確認、飼育環境指導、食餌指導等）を行った。動物対処室未受診のペットの飼養状況の把握が未実施であり、今後の課題である。

④普及啓発事業

連携先／**主担当**：小笠原村 獣医師会

【平成30年度事業計画】

- ・年1回、獣医師会等から外部有識者を招聘しキャンペーン期間を設定し、講演会等を開催

【実施結果概要】

- ・イヌとネコ、その他のペットの飼い主に飼い主案内を郵送にて発行（7月、2月）
- ・飼い主の会 ML や村民だよりを通じて対処室からのお知らせ等を発信
- ・村環境課によるペットに関するアンケート（9月配布・10月回収）
- ・小笠原小学校1年生、母島小学校1・2年生向けのニワトリを用いた出前授業
- ・小笠原小学校の飼育・栽培委員会（4～6年生）向けにニワトリの飼育講習
- ・ネコ連による小笠原ネコプロジェクト企画展の際に、パネルや資料等を提供（3月）

（4）その他

①関連会議との連携

連携先／**主担当**：環境省 小笠原村 東京都

【平成30年度事業計画】

- ・「小笠原ネコに関する連絡会議」や「アカガシラカラスバト・オガサワラオオコウモリに関する連絡会」で議論してきた「集落ネコ対策」「譲渡促進」「生活域における傷病対応」等の個別課題に関することについて、関係機関・団体と連携して、協議会の役割などの体制の整理・検討を行う

- ・小笠原村が「愛玩動物による新たな外来種の進入・拡散防止に関する地域課題ワーキンググループ」で検討している新たな条例に対して、条例の運用に関し、協議会の参画のあり方の検討を行う

【実施結果概要】

- ・ネコ連絡会議（5/19、10/24）：他機関との情報共有、島内譲渡の再開について
- ・ネコ譲渡促進WG（6/7、11/6）：捕獲ネコ受入れ病院拡充について
- ・希少鳥獣連絡会（7/17、10/24）：他機関との情報共有
- ・愛玩動物WG（6/21、9/27、10/31、11/15）：ペット条例の検討について

②動物由来感染症対策、災害時の衛生管理、油事故汚染対策

連携先／**主担当**：環境省 東京都

【平成30年度事業計画】

- ・島内関係機関と連携して対応する

【実施結果概要】

- ・野鳥における高原性鳥インフルエンザに係る対応に係る打合せ（10/24）
→連絡体制の確認等（動物対処室における対応はなし）
- ・東京都・小笠原村合同総合防災訓練ブース出展（11/8）
→東京都島しょ保健所小笠原出張所及び小笠原村環境課において共同でブース出展
獣医師から、災害時でのペットへの対応について、普及啓発を行った。

③その他：獣医師による内地向けの普及啓発及び研修等

<普及啓発>

【講演会】

- ・東京環境工科専門学校（9/3：学生30名聴講、2/23：教員・卒業生6名聴講）
- ・日本獣医生命科学大学（2/7：学生、社会人、教員56名聴講）
- ・横浜市立野毛山動物園（2/24：学生、社会人52名聴講）

【島内】

- ・動物対処室見学者への普及啓発（12件：14名+1団体 教員、大学生、獣医師、観光客）

<研修>

【学会等】

- ・日本野生動物医学会大会@大阪（8/31～9/2）
- ・大獣医療展@横浜（9/5～6）
- ・日本鳥学会@新潟、エクスカーション@佐渡島（9/14～18）
- ・日本獣医師会獣医学術学会@横浜（2/8～10）
- ・日本内科学アカデミー学術大会@横浜（2/15～17）

2. 平成30年度に実施した主な内容

月	日	実施内容	(1)	(2)	(3)
4月	中旬 26日	狂犬病予防注射（父・母）の際の適正飼養指導 第1回幹事会			◎
5月	14日	総会			
6月	1日 22日	ネコの島内譲渡受付開始 ネコの適正飼養講習会		◎ ○	○ ◎
7月	初旬	ネコの島内譲渡実施		○	◎
8月		補助員追加募集（10月から雇用開始）			
9月		荒井獣医師 内地出張（講演会1回ほか）			
10月	18日 22日 29日	小笠原小学校1年生向け出前授業 母島小学校1・2年生向け出前授業 第2回幹事会			◎ ◎
11月	8日 下旬	東京都・小笠原村合同総合防災訓練ブース出展 島内譲渡したネコの避妊・去勢手術実施		○	◎ ◎
12月					
1月					
2月		荒井獣医師 内地出張（講演会2回ほか）			
3月					

<事業区分>

- (1) 外来種による被害や人為的影響等を受ける野生動物の保護に関する事
- (2) ペット由来の外来種である飼い主のいないネコ対策に関する事
- (3) ペット由来の外来種を生み出さないための適正飼養の推進に関する事